

明和ニュース

(号外：PTA 総会参加の保護者 様)

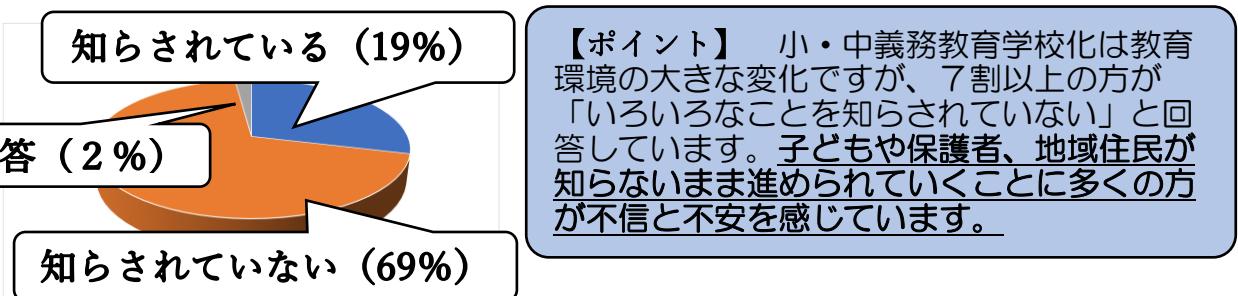
発行：希望に満ちた明和を創る会 2025年5月2・8日

明和小・中一貫校化（義務教育学校化）アンケート結果の報告

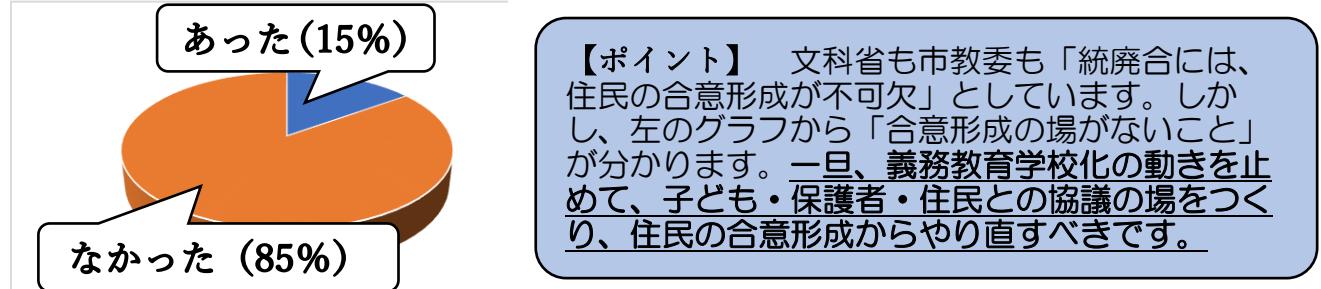
私たちは、昨年の8月と11月に標記のアンケートを実施しました。2回のアンケートに、354人件の回答をいただきました。このニュースでは、2回分の「結果とポイント」をお知らせします。

質問1 あなたのことを教えてください。（今回のニュースからは割愛します）

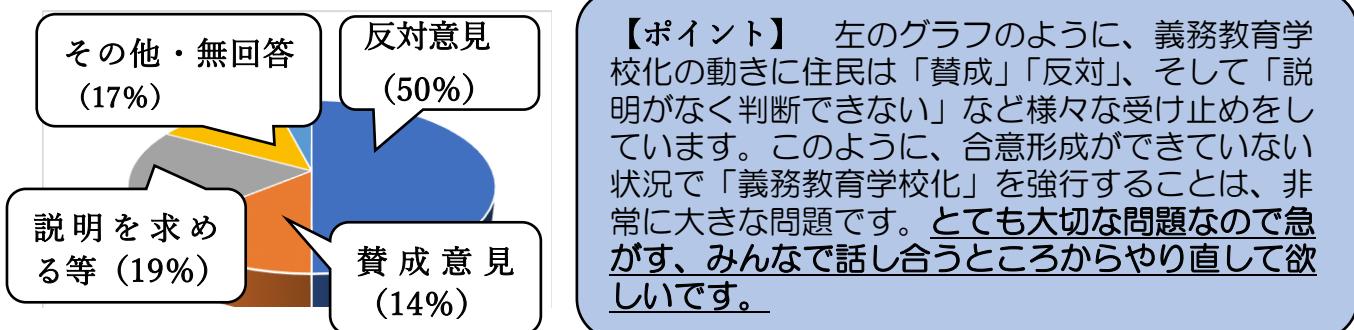
質問2 一貫校化（義務教育学校化）のこれまでの動きや今後のことについて知られていますか？



質問3 一貫校化（義務教育学校化）について、あなたの考え方や意見を述べる場がありましたか？



質問4 一貫校化（義務教育学校化）について、あなたの考え方を聞かせてください。



ホームページを立ち上げました。今後もアンケートを受け付けます。

ホームページを立ち上げて、「明和小・中学校の『義務教育学校化』」に関する情報を発信します。この動きを一旦止、住民の理解と合意形成からスタートさせるためには、明和のみなさんの声が必要です。声を寄せる方法は、①紙による回答。②右のQRコードから。③ホームページの「ご意見・お問い合わせページ（アンケート用）（当会ホームページ）」（アンケートに書き込む。の3つの方法があります。



「義務教育学校」に関する説明会に参加される保護者のみなさんへ

なぜ、「一旦白紙に戻しましょう」と訴えるのですか？

みなさんの中には、「創る会」の人たちは「どうして反対しているの？」という疑問をもつ方がおられると思います。そこで、私たちがなぜ「一旦白紙に戻しましょう」と言っているかをQ&A形式でお示しします。読まれて、「そうだね！！」とおっしゃる方々と手をつなぎ大きなうねりにして、明和小・中学校をこのまま残していきたいのです。

Q 子どもの数は、今後も減るの？

A ここ7年間、小学生の児童数は1クラス60人で推移しており、減少傾向ではありません。今後は、減少より増加する要素がありますよ！

要望書では、児童生徒数の減少を根拠に小・中学校義務教育学校化を要望しました。

しかし、子育て中の若い方の家が建っています。また、県営住宅跡地に商業施設の建設の計画もあります。今後、児童生徒数が増加する要素はたくさんあり、「学校規模適正化」に該当しなくなる可能性は大です。だからこそ、「白紙に戻してみんなで考える」ことが必要だと思います。

Q 中学校を残すには、「義務教育学校化」しかないんでしょう？

A いいえ！いい方法が、もう一つありますよ！

今日も、「小・中学校を残すには義務教育化しかない」と説明されるが、もっといい方法があります。それは簡単です。要望書を取り下げるのです。

本日の説明会でも、開校まで5・6年位かかると説明されるでしょう。この時間を無駄にせず、「まち協」のみなさんには「人口が増える魅力的なまちづくり」に頑張っていただき、「学校規模適正化」の対象外になるというシナリオを描いてもらいましょう。

Q 義務教育学校にするとどのようなデメリットがあるのですか？

A 本来それぞれの時期に育まれるべきものが育たないことが、すでに導入した学校に勤務する教職員からも語られます。

今日の説明で、「義務教育学校にすることでバラ色の学校」になるかのような話があるかもしれません。しかし、義務教育学校になると、7～15歳までの年齢差のある子どもたちが同じ空間で生活します。いろいろなトラブルや課題が現れることが想像できます。

その危惧が現実化していることは、現場からの声でもわかります。

- ① 小学校文化（のびのびと遊び学ぶ）と、中学校文化（じっくり学習）の違いのすり合わせに時間と労力を費やす。その結果、子どもたちとの関わりの時間が削られる。（中学校教諭）
- ② 小学校高学年のリーダー性や責任感などが育ちにくいのと同時に、中学生の幼児化が進む傾向にある。（中学校教諭）
- ③ 子どもたちの環境の変化への対応や、「いじめ」の発生などが心配である。（保護者）

教育環境の変化は、未来を託す子どもたちに関わる問題です。だからこそ私たちは、「まち協」や「市教委」のみなさんに「白紙に戻してみんなで考える」ことを求めているのです。